

ウナギ

体は細長くヌルヌルし、背側は暗色で腹側は白色です。エラ呼吸の他に皮膚呼吸をすることが出来ます。成魚は、主に河川の中流域から下流域の石の下や泥の中、土手の穴に生息します。夜行性で、夜になると活発に動き出し、甲殻類や小型の魚類、水生昆虫類、カエル類などを食べます。

ウナギは、海で生まれ、成長するために川を上り、その後産卵のために海へ下っていきます。そのような魚類を、「降河回遊魚（こうかかいゆうぎょ）」と言います。

ウナギの産卵場所は、河口の近くではなく、遠く離れた太平洋のマリアナ海溝にあるスルガ海山付近だと考えられています。

産まれたばかりのウナギは、「レプトケファルス（葉形幼生）」と言われ、柳の葉のような形をしています。その後、「シラスウナギ」に変態し、10月～6月に川へ上ります。



富士市での現状

ほぼ全ての河川の中流域～下流域で確認できました。

ウナギを確認したメッシュ

